

グッドマンが住宅局長賞

部屋の温度差など利用 パッシブ換気システム

日本建築材料協会の優良製品・技術表彰2023で、グッドマン(本社・札幌)の「グッドマン換気口」が国土交通省住宅局長賞に選ばれた。部屋の温度差や風圧などの作用を利用するパッシブ換気システム。12年に北国の省エネ・新エネ大賞、13年にエコプロダクツ大賞審査委員長特別賞、17年に発明協会会長賞を受賞して、中小企業による発明や製品開発のトップランナーとして確固たる地位を確立した。

日本建築材料協会の優良製品・技術表彰2023

優良製品・技術表彰は、建築材料や住宅設備の優れた製品・技術を社会に発信し、業界全体の発展と向上に寄与することを目的とした制度。日本で唯一、経済産業省と国交省が認めた建築材料や住宅設備をたたえる賞として位置付けられている。

住宅局長賞に選ばれたグッドマン換気口は、空気の自然な流れを利用するパッシブ換気システムの一種。室内と屋外側の各換気口をつなぐパイプ内部を板で上下に仕切り、上から暖かい空気が逃げ、下から冷気が入ってきていることで、排気と給気の両方ができる。その



研究初期のグッドマン換気口



グッドマン換気口を説明する斉藤社長

大名倉教授)と知り合い、開発に弾みが付いた。

佐々木教授は、国内外の学会に論文を発表したり、通気性や防風雨性の性能実験を北方建築総合研究所でも実施するなど、グッドマン換気口の開発を手弁当でサポート。21年に他界した。斉藤社長は「30年余りの付き合いだった。グッドマンを、俺の発想と同じだ」と支持してくれた」と振り返る。

近年のコロナ禍は、通気性の良さでメンテナンスのしやすさから、老健施設や飲食店などのクラスター対策で採用される。北海道は冬の結露によるカビ対策に悩む世帯が多く、健康面からグッドマン換気口に付け替えるユーザーが多い。

斉藤社長は「顧客から付けて良かった」と喜ばれるのが原動力。最近では電気料金が上がった健康意識が高まっているため、グッドマン換気口を使ってもらいたい」と話している。

様子から「呼吸する換気口」の愛称を持つ。

高気密の建物に有効な技術。室内側に配置するダンパーの開閉部を調整することで、快適な自然

風を四季を通じて得られ、冬はダンパー上部で室内外の空気が混じり合い、冷気が降下する「ダウンドラフト」を防ぐ。

シックハウス対策には、機械換気と併せた第三種換気、いわゆる「ハイブリッド換気」を提案する。長期不在時や停電

データ取込から穴開まで実践

型枠
(本社・
に導入
段加工

中

中国の
ている。
央銀行)
ぶりの利
た。金融
活動を主
が、消費
んでい
不安が相
下げ効
り、世間
なりか
回復
人民銀
は、事
当たる
年物と、
の基準
ずれもの
易綱総裁

燃料「導入、できるだけ前倒し」

(本社・愛知県豊田市)は、スズキと製造協力に関する基本合意書を交わ